

■科目名

特別支援教育基礎論

Basics of Special Needs Education

■開設年度

2021

■区分

教職理解科目

■学科名

特別支援教育

■分類

■単位数

1

■履修期

4期

■履修条件

■開講期

後

■担当教員

肥後 祥治

■代表教員名及び連絡先等

肥後祥治(higosho@edu.kagoshima-u.ac.jp)

■オフィスアワー

木曜日 3限

■講義の概要（目的・内容・方法）

本授業は、次の目的を持っている。一つは、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解した上で、そのような幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解することである。もう一つは、障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解するである。

2名の担当教員は、二つに分けられた授業登録者のグループに対して、それぞれ別に同じ時間帯に授業を行う。授業は原則として、対面授業と遠隔授業を併用して行われるが、その比率は、担当者によって異なる場合がある。

■授業の到達目標及びテーマ

- 1) インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解する。
- 2) 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解する。
- 3) 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身に付ける。
- 4) 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示できる。
- 5) 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解する。
- 6) 特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解する。
- 7) 特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解する。
- 8) 母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解する。

■授業計画

- | | |
|-------------------------------|-----------------|
| 1. オリエンテーションと映像資料の視聴 | (対面式授業) |
| 2. 障害の臨床像の理解1(知的障害と発達障害) | (リアルタイム配信：ZOOM) |
| 3. 障害の臨床像の理解2(障害状況の多様性) | (リアルタイム配信：ZOOM) |
| 4. 特別支援教育のシステムと教育課程(通級・自立活動含) | (リアルタイム配信：ZOOM) |
| 5. 特別支援教育における専門性とチームアプローチ | (リアルタイム配信：ZOOM) |
| 6. 支援の必要な子どもへの具体的アプローチ | (リアルタイム配信：ZOOM) |
| 7. 特別な教育的ニーズの概念と日本の特別支援教育の方向性 | (リアルタイム配信：ZOOM) |
| 8. 統括協議と確認テスト | (リアルタイム配信：ZOOM) |

■授業外学習（予習・復習）

授業は、「特別支援教育概論サブノート」を元に展開される。授業終了後にサブノートを用いた授業内容の確認、不明点の抽出を行い次の授業の開始時に必要であれば、確認すること。

■受講要件

なし

■成績の評価基準

最終授業の際におこなう確認テストの成績によって評価する。ただし授業を3回欠席した者は、評価の対象には含まれない。

■教科書・参考書

(肥後担当グループ)

特別支援教育概論サブノート(オリエンテーション時に販売)

■教師としての資質能力に関するチェック項目

3. 教育方法に関する理解

【A教職の理解】教育方法の理論に関する理解を深め、複式指導や少人数指導、教材開発や活用、授業分析など、指導法や授業改善について理解している

11. 特別支援教育に関する理解

【C学習者理解】特別支援教育に関する基本的な知識を身に付けており、それを生かした具体的な指導・支援の在り方を構想することができる

アクティブ・ラーニング

振り返り(ミニッツ・ペーパー等)；

アクティブ・ラーニング(その他)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

■実務経験のある教員による実践的授業

■その他

授業形態(対面・遠隔)については、コロナウイルス感染症の影響、その他の理由により変更する場合がある。